

令和 6 年度事業報告

(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

目次

1. 法人の状況に関する重要な事項
2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）
3. 事業報告付属明細書



1. 法人の状況に関する重要な事項

令和6年4月1日から令和7年3月31日に至る事業活動として、定款第3条に掲げる「実学の精神に則り、生物学的製剤等に関する研究・調査及び助成・顕彰等を行う等して、広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資する」ことを目的として、定款第4条並びに平成31年4月1日付けで内閣府より変更認可を受けた公益目的支出計画に基づき以下の諸事業を行った。

本事業報告 段落番号	事業名		定款 第4条	公益目的 支出計画
1(1)	公益目的支出計画に基づく実施事業			
1(1)①	研究助成事業		(2)	公益 1
1(1)②	顕彰事業		(2)	公益 2
1(1)③	生物学的製剤等に関する研究・調査事業		(1)	継続 1
1(1)④	予防衛生普及事業			継続 2
1(1)④ア		医療技術者を養成する事業への協力支援	(3)	
1(1)④イ		奨学金給付	(6)	
1(1)④ウ		学術集会開催・後援	(7)	
1(1)④ウ		大学・研究機関の後援	(7)	
1(1)④エ		寄附講座	(7)	
1(1)④オ		印刷物の刊行	(7)	
1(2)	その他の事業			
1(2)①～④	医療機関等への協力・支援		(4)	
	地球環境保全に関連する事業		(8)	
	健康管理支援事業ほか		(9)	

定款第4条

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 生物学的製剤等に関する研究・調査
- (2) 感染症及び血液領域を中心とした研究等に対する助成・顕彰
- (3) 医療技術者を養成する事業への協力・支援
- (4) 医療機関への協力・支援
- (5) 印刷物の刊行
- (6) 奨学金の支給
- (7) 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

(8) 地球環境保全に関連する事業

(9) その他当法人の目的達成上必要と認める事業

2 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

(1) 公益目的支出計画に基づく実施事業

① 研究助成事業

感染症領域及び血液領域の発展に寄与することを目的に、両領域の基礎的研究を対象とした以下の3つの研究助成事業を実施した。

- 「化血研研究助成」は、年齢制限を設けずに公募し、先端的・独創的に研究に取り組んでいる日本の大学または公的研究機関等に所属する研究者個人若しくは研究チーム・団体に対して、1件あたり年1,000万円を2年間助成する。
- 「化血研若手研究奨励助成」は、次世代の研究者の育成に資するために45歳未満（申請締切時点）の研究者を対象に公募を行い、先端的・独創的に研究に取り組み、独立した研究課題（研究テーマ）を持った将来有望な若手研究者に対して、1件あたり300万円を助成する。
- 令和5年度から新たに開始した「化血研ステップアップ研究助成」は、令和3,4年度「化血研若手研究奨励助成」対象者を申請者資格として公募し、将来有望な若手研究者の研究を更にステップアップするため、1件あたり年300万円を2年間助成する。

申請された候補者の中から、学識経験者18名で組織される助成選考委員会で選考を行い、理事会にて「化血研研究助成」6件（3.事業報告付属明細書 表1）、「化血研若手研究奨励助成」15件（3.事業報告付属明細書 表2）、「化血研ステップアップ研究助成」3件（3.事業報告付属明細書 表3）を決定し、計1億1,400万円を助成し、ホームページに公開した。合わせて、令和4年度及び令和5年度「化血研研究助成」対象者14名に、計1億2,600万円を助成金として支給した（研究助成金の支給総額：2億4,000万円）。

令和2,3年度「化血研研究助成」対象者12件、および令和3年度「化血研若手研究奨励助成」対象者10件の研究報告書に基づき、助成選考委員による中間及び事後評価を実施し、各対象者に評価結果をフィードバックした。

令和5年度「化血研研究助成」「化血研若手研究奨励助成」対象者16名にインタビューを行い、当法人ウェブサイトにおいて公開した。

また、令和3年度「化血研研究助成」対象者6名による助成研究報告会を、令和7年3月13,14日開催した。



【写真1】第4回 助成研究報告会

② 顕彰事業

感染症領域及び血液領域の研究において大きな成果のあった者で、今後も研究の進展に貢献が期待される個人・法人・研究チーム・団体を顕彰する事業を実施した。

当法人が定めた計17の学会（表1）、並びに当財団の理事及び評議員から推薦のあった者について、学識経験者8名で構成される顕彰選考委員会で選考を行い、理事会にて第6回『太田原豊一賞』顕彰者2名を決定（表2）し、ホームページに公開した。授賞者には、令和7年3月13日開催の贈呈式において、太田原豊一賞（賞状、トロフィー）および副賞（1件 1,000万円）を贈呈した。

表1 推薦学会

・ 日本ウイルス学会	・ 日本エイズ学会	・ 日本感染症学会
・ 日本癌学会	・ 日本寄生虫学会	・ 日本血液学会
・ 日本血栓止血学会	・ 日本公衆衛生学会	・ 日本細菌学会
・ 日本獣医学会	・ 日本生化学会	・ 日本熱帯医学会
・ 日本分子生物学会	・ 日本免疫学会	・ 日本薬学会
・ 日本輸血・細胞治療学会	・ 日本ワクチン学会	

表 2 第 6 回『太田原豊一賞』受賞者

氏名	所属 役職	受賞研究テーマ
小川 誠司 先生	京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学講座 教授	骨髄異形成症候群および関連疾患の病態解明と臨床応用
朝長 啓造 先生	京都大学 医生物学研究所 RNAウイルス分野 教授	ボルナウイルス感染症の包括的理解に関する研究



【写真 2】第 6 回『太田原豊一賞』贈呈式

③ 生物学的製剤等に関する研究・調査事業

ア. 熊本保健科学大学 生物毒素・抗毒素共同研究講座

令和元年 10 月 1 日に熊本保健科学大学に開設した生物毒素・抗毒素共同研究講座において、生物毒素、抗毒素とその品質管理手法の開発研究等を継続して実施した。

イ. 熊本保健科学大学 品質保証・精度管理学共同研究講座

令和 2 年 10 月 1 日に熊本保健科学大学に開設した品質保証・精度管理学共同研究講座において、医薬品 GMP とその医薬品等の品質保証、ISO15189 を中心とした医学検査所の品質管理の調査・研究を継続して実施した。

ウ. 東京理科大学・社会連携講座 医薬品等品質・GMP 講座

令和 2 年 7 月 1 日に東京理科大学薬学部に社会連携講座として開設した医薬品等品質・GMP 講座において、医薬品 GMP を中心とした研究とその教育システ

ムの開発を継続して実施した。

エ. 熊本大学 抗ウイルス療法・血液疾患研究共同研究講座

令和5年4月1日に熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センターに抗ウイルス療法・血液疾患研究共同研究講座を開設し、新規な抗ウイルス療法および血液疾患治療法の開発に向けた調査・研究を継続して実施した。

オ. 熊本大学国際先端医学研究機構 造血幹細胞工学共同研究講座

令和6年4月1日に熊本大学国際先端医学研究機構（IRCMS）に造血幹細胞工学共同研究講座を開設し、造血幹細胞の維持増殖手法の開発研究を開始した。

④ 予防衛生普及事業

ア. 医療技術者を養成する事業への協力・支援

使途を医療技術者養成と指定して、学校法人銀杏学園熊本保健科学大学に対し2,400万円を、国立大学法人熊本大学大学院生命科学研究部（保健学系）に対し1,000万円を寄附した。

イ. 奨学金の給付

熊本保健科学大学の学生に対し給付型奨学金「化血研奨学金」を、九州8大学（九州大学、熊本大学、長崎大学、佐賀大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）の医学部博士課程（感染症/血液専攻）、及び医学部医学科課程の学生に対して給付型奨学金「化血研医学奨励奨学金」の支給事業を行った（博士課程奨学金一人当たり月10万円（年間120万円）、医学科課程一人当たり月5万円（年間60万円））。

対象となる大学から推薦を受けた16名について、理事面接の上、13名の奨学金給付を決定した。令和5年度以前からの支給者33名と合わせて計46名（表3）に対し、総額3,120万円を支給した。

表3 奨学金支給件数（令和6年度）

	熊本保健科学大学	熊本大学	九州大学	長崎大学	佐賀大学	大分大学	宮崎大学	鹿児島大学	琉球大学	件数合計
化血研奨学金	12 (6)									12 (6)
化血研医学奨励奨学金		15 (2)	5 (1)	5 (1)	2 (0)	3 (1)	4 (0)	1 (1)	4 (1)	34 (7)
全体合計										46 (13)

※カッコ内は、令和6年度に新規に支給を開始した件数

ウ. 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

1. 阿蘇シンポジウム（主催）

令和6年8月2日及び3日に、熊本城ホールにおいて第44回阿蘇シンポジウムを開催した。テーマを「感染症と造血器腫瘍のダイバーシティ」とし、先端の研究者10名が講演を行った。シンポジウムはハイブリッド（現地開催＋WEB配信）形式で開催し、参加者は280名（うち、現地参加者143名）であった。



【写真3】第44回 阿蘇シンポジウム

2. 肥後医育塾（共催）

熊本県民に対して定期的に医学・医療情報を提供し、県民とともに健康と医療を考えることを目的に、市民公開セミナー「肥後医育塾」を公益財団法人肥後医育振興会、熊本日日新聞社と共催した。令和6年度は、以下の3回の公開講座開催他の費用として、500万円を助成した。

開催日	テーマ	現地参加者
2024年8月4日	がんの原因となるウイルス～予防のためにできること～	約170人
2024年11月10日	北里柴三郎記念感染症セミナー「熊本が生んだ近代医学のヒーローから新時代の感染制御へ」	約100人
2025年2月8日	新興・再興感染症の不思議～正しく知って正しく防ぐ～	約60人

3. 熊本大学夢科学探検（協賛）

本イベントは、最先端の科学を分かりやすく紹介しながら子供たちに感動

を与え、興味を深めてもらおうと熊本大学が毎年実施しているもので、毎年、寄付金 50 万円を支出し協賛している。令和 6 年度は、令和 6 年 11 月 2 日に実施され、約 2,400 名の来場者があった。

エ. 大学寄附講座

1. 熊本大学フロンティアデータサイエンス化血研寄付講座

令和 4 年 4 月 1 日付で、熊本大学大学院先導機構にフロンティアデータサイエンス化血研寄付講座を設置した（2025 年 4 月より、熊本大学半導体・デジタル研究教育機構所属）。本講座では、健康・公衆衛生・生体・物質材料分野等の研究においてデータサイエンスを展開し、データサイエンティストの育成を図る。本年度は 3,440 万円を寄附した。

オ. 印刷物の刊行

当法人の事業内容を紹介する定期刊行物「OH!120」を、令和 6 年 4 月及び 9 月の 2 回、それぞれ 1,500 部発刊した。当法人関係者等へ郵送若しくは配布したほか、当法人ウェブサイトにおいて公開した。

(2) その他の事業

① 健康管理支援事業

公益財団法人友愛福祉財団が実施主体である健康管理支援事業について、令和 6 年度の本事業に要する経費の当法人分担金として、16,543,233 円を支出した。

② 地球環境保全に関連する事業

水涵養の目的で、平成 9 年度及び平成 10 年度に九州森林管理局との分収造林契約に基づき熊本県山都町内大臣の国有林の一部に植林を行い、維持している。

③ 医療機関への協力・支援

当法人の理事 2 名が医療法人城南ヘルスケアグループの社員・理事に就任している。

④ 不動産賃貸事業

ア. 熊本県熊本市南区城南町舞原

年間を通じて、医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院に対し、その病院用地を賃貸した。

イ. 東京都港区白金台

賃貸用マンションの運営を継続した。

2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）

（1）内部統制システムの整備に関する決定の概要

令和6年度において、以下を整備した。

1. 企画調整室の設置

（2）内部統制システムの運用状況の概要

1. ボード会議

業務執行理事による協議の場としてボード会議を設け、理事会議題の論点の事前共有や、各種事業課題の進捗状況の確認を行った。

2. 企画調整室

リスクマネジメント、コンプライアンス推進、経営企画業務の事務局業務を担当する企画調整室を令和6年7月1日付けで設け、内部統制システムの維持を図った。

3. 評議員会通信

評議員への事業活動に関する情報共有手段として「評議員会通信」を前年度に引き続き継続して発刊し、理事会審議内容等を定期的に共有した。（月刊）

3. 事業報告付属明細書

表 1	研究助成事業	化血研研究助成対象者
表 2	研究助成事業	化血研若手研究奨励助成対象者
表 3	研究自制事業	化血研ステップアップ研究助成対象者

【表 1】

化血研研究助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

No.	氏名	所属機関	職位	研究題目
1	青木 友浩	東京慈恵会医科大学薬理学講座	教授	血流負荷感受機構である細胞膜物性の血管病の発症進展を促進する危険な変容様式の同定と細胞膜物性を標的とした革新的創薬の展開
2	岸川 淳一	京都工芸繊維大学 応用生物学系	准教授	リンゴ酸：キノン酸化還元酵素 MQO をターゲットにした広範な感染症治療効果を持つ新規薬剤シーズの創出
3	児玉 年央	長崎大学 熱帯医学研究所	教授	ヒト組織由来腸管オルガノイドを用いた腸炎ビブリオの腸管病原性機構の解明
4	小松 紀子	東京科学大学 難治疾患研究所	教授	血球細胞を制御する間葉系細胞の病原性獲得機構の解明
5	指田 吾郎	熊本大学 国際先端医学研究機構	教授	感染記憶による血液がん発症の病態解明と治療法検証
6	朴 三用	横浜市立大学 生命医科学研究科	教授	B 型肝炎ウイルスの感染受容体による感染機構解明

【表 2】

化血研若手研究奨励助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

No.	氏名	所属機関	職位	研究題目
1	有井 潤	神戸大学 大学院医学研究科	准教授	血球におけるヘルペスウイルス持続感染成立機構の解明
2	岡 泰由	名古屋大学 環境医学研究所	講師	DNA修復システムの破綻により発症する遺伝性骨髄不全症候群の病態解明
3	雁金 大樹	東京科学大学 血液内科	特任 准教授	セリン代謝による造血幹細胞維持機構の解析
4	岸本 麻衣	大阪公立大学 大学院獣医学研究科	助教	ヒトに病原性のある新規ダニ媒介性ナイロウイルスの感染伝播機構の解明
5	木下 真直	山梨大学 大学院総合研究部	助教	Neutrophils extracellular trapsを標的としたステイプルス・ジョンソン症候群の治療機序と新規薬剤の創出
6	佐伯 法学	愛媛大学先端研究院 先端研究高度支援室	准教授	敗血症におけるマクロファージと骨格筋組織のミトコンドリア移送
7	福島 剛	東京大学 医科学研究所	特任 研究員	造血幹細胞の運命制御分子ネットワークの機能的解析
8	藤原 英晃	岡山大学 病院血液・腫瘍内科	研究 准教授	口腔・肺・腸内細菌叢を基軸とした骨髄移植後免疫反応調節機序の解明と治療応用
9	細川 晃平	金沢大学 附属病院 血液内科	講師	再生不良性貧血における抗原特異的CD4+T細胞による造血抑制メカニズムの解明
10	南 聡	大阪大学 大学院医学系研究科	特任 助教	リソソーム損傷応答を制御することにより動脈硬化に対する新規治療法を開発する
11	矢作 綾野	東京女子医科大学 医学部	助教	炎症下のトロンボポエチンによるリンパ球機能と血小板分化調整機構の解明
12	横溝 貴子	東京大学 医科学研究所	特任 助教	Tet2 欠損に起因するクローン性造血およびMDS発症を司るエピゲノム制御因子の同定
13	吉田 優哉	九州大学 大学院薬学研究院	助教	CKD性心不全の腸内細菌叢変容機構の解析と細菌X活性を標的とした革新的経口抗体医薬品開発
14	劉 孟佳	熊本大学 国際先端医学研究機構	特任 講師	心血管系の老化における組織マクロファージの細胞起源の重要性
15	若江 亨祥	国立感染症研究所 ウイルス第二部	主任 研究官	内在性レトロウイルスは肝炎の増悪因子か？

【表 3】

化血研ステップアップ研究助成対象者一覧

(五十音順・敬称略)

No.	氏名	所属機関	職位	研究題目
1	遠藤 裕介	かずさDNA研究所 先端研究開発部	室長	脂質代謝を基軸とした次世代抗ウイルスシステムの PoC 確立
2	田久保 圭誉	東北大学 大学院医学系研究科	教授	加齢造血幹細胞および骨髄増殖性疾患に共通するミトコンドリアレジリエンスの誘導機構の解明と標的療法の検討
3	見市 文香	長崎大学 熱帯医学研究所	教授	赤痢アメーバが産生する超長鎖ジヒドロセラミドの休眠化における機能解析